



環境研究総合推進費シンポジウム2016 @奄美博物館



森といきもの、そして人 —奄美の森と共に歩む道—

主催 国立研究開発法人 森林総合研究所
共催 長崎大学環境科学部・琉球大学農学部・東京農工大学
後援 環境省那覇自然環境事務所・林野庁鹿児島森林管理署・奄美市

ポスター発表も同日開催
・鹿児島県立大島高校 17:40～
・龍郷町立龍北中学校 18:00～

奄美大島の森（3月）

講演内容と演者

奄美の森林利用の過去と未来

杉村 乾（長崎大学環境科学部）

国立公園・世界自然遺産が活かされる条件

どのようなサポートが必要か？

岩本千鶴（環境省奄美自然保護官事務所）

奄美の動物たちを取り巻く喜ばしい変化、

それを見守り次世代につなぐ

亘 悠哉（森林総合研究所野生動物研究領域）

日時 平成28年11月28日（月）

開場 17:30 講演 18:30～20:30

会場 奄美市立奄美博物館

企画展示室（3階）

（鹿児島県奄美市名瀬長浜町517）

対象 どなたでもお気軽にご来場ください

申込・参加費 不要

お問い合わせ： 国立研究開発法人 森林総合研究所

〒305-8687 茨城県つくば市松の里1 電話 029-829-8224（直通） FAX番号 029-874-3720 電子メール abeshin@ffpri.affrc.go.jp

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます

森といきもの、そして人—奄美の森と共に歩む道—

本シンポジウムは、H27年度に新規採択された環境省環境研究総合推進費(4-1503)「奄美・琉球における森林地帯の絶滅危惧種・生物多様性保全に関する研究（H27～29）研究代表者：正木隆（森林総研）」の研究成果を地域や行政機関等に速やかに還元し、連携して研究プロジェクトを推進するために実施します。本研究プロジェクトは、国立研究開発法人森林総合研究所、国立大学法人琉球大学、国立大学法人東京農工大学、国立大学法人長崎大学の共同研究事業です。また当日は、鹿児島県立大島高校や龍郷町立龍北中学校の生徒さんをはじめ、奄美大島で自然や環境に関わる活動をされている方々によるポスター発表を同時開催します。

日時：平成28年11月28日（月） 場所：奄美市立奄美博物館 企画展示室（3階）

17:30 開場

17:30～18:30 ポスター発表（鹿児島県立大島高校 17:40～、龍郷町立龍北中学校 18:00～）

18:30～20:30 講演

開会挨拶 正木 隆（森林総合研究所森林植生研究領域長）

奄美の森林利用の過去と未来

杉村 乾（長崎大学環境科学部）

奄美大島では、1960～90年代前半までに天然林が広く皆伐された時期がありました。しかし、現在はマングース駆除の成功による希少種の回復、皆伐面積の縮小、エコツーリズムへの関心の高まりという状況を迎えています。そこで、森林伐採及びツーリズムの現況を把握したうえで、希少種保全に留意した森林管理方針の選択肢について考察しました。林齢、伐期、木材チップ価格、林道建設などが鍵になると見られますが、林業と希少種保全の共存のためには、伐採面積の大幅な増加がないことが必要であると考えられました。

国立公園・世界自然遺産が活かされる条件 どのようなサポートが必要か？

岩本千鶴（環境省奄美自然保護官事務所）

国立公園と世界自然遺産とは、こういった制度で何がどう守られるのでしょうか。また、国立公園に指定されたり、世界自然遺産に登録されたりするだけで、その地域の自然環境はしっかり守られるのでしょうか。今回は、国立公園と世界自然遺産の制度についてお話し、国立公園と世界自然遺産を活かしていくためには何が必要なのかを会場のみなさんと一緒に考えていきたいと思います。

奄美の動物たちを取り巻く喜ばしい変化、それを見守り次世代につなぐ

亘 悠哉（森林総合研究所野生動物研究領域）

アマミノクロウサギやアマミイシカワガエル、奄美大島を代表する動物たちをとりまく状況はここ数年で大きく変わってきました。とくにマングース対策の結果、たくさんの奄美の動物たちが増えてきたことは世界的にも驚くべき成果といえます。一方で、ノネコ問題、観光客増大への対応など、新たな課題も生じています。これらのさまざまな変化の影響を把握するために、本プロジェクトでとりくんでいる新しい動物調査方法の開発について紹介します。

総合討論 奄美の森とどう共に歩むか

コメント 鈴木祥之（環境省奄美自然保護官事務所）、井川武史（林野庁名瀬森林事務所）

閉会挨拶 奄美市